

編

集

後

記

昨年11月のある夜のこと、編集部はまっ暗な大学構内を一人部室にむかって歩いていました。秋の月に照らされた法文の古い建物は帝大時代そのままの秩序に支配されてたはずみ、安田講堂はあの熾烈なる東大闘争のことなどすっかり忘れたように深いしじまの中にそびえておりました。そしてだれもいない音楽部室にはいって50年史の作業をはじめた時、今にも昔の学生たちがやってきて合奏や合唱を始めそうな錯覚にとらわれたのです。50年なんて短い時間なんだな、とその時は思いました。しかしこの50年の間に東大音楽部がどのようにして音楽をつくってきたかをまとめるのは私達の手に残る大仕事でした。3月末に50年史の編集委員になって以来、多くの夢やアイデアが浮かんで消え、結局ここにみるような平凡な本ができました。

オーケストラでは6年前に太田雅夫氏(昭42卒)が「東大オーケストラ45年史」という立派な本を作っています。そこで今回の50年史のうちオーケストラに関する部分の編集にあたっては45年史以後、すなわち訪欧演奏旅行と東大闘争をふくむ最近6年間の動きを伝えることに大きな精力を注ぎました。というよりむしろ、この6年間の動きがあまりに激しかったからこそ50年史を作る気になった、といった方が正確かもしれません。

いずれにせよ、この50年史は昭和11年の「部報1~3」、28年の「仮部史・名簿」、29年の「音楽部35年史」、そして39年の「45年史」という積重ねの上でできたものです。

コール・アカデミーでは昭和29年に「35年史」をオーケストラといっしょに作って以来、部史の編さんは16年ぶりのことです。といっても「35年史」はステージ記録と回想録から成るもので、それはそれで大変参考になったのですが、いざ50年の歩みを“概説”の形で書くとすると参考文献がなく困りました。そこで各世代の先輩にじかにお会いし、当時の貴重な記録を“取材”させていただきました。10月と11月……秋もたけなわのころです。多くの先輩の労を寄せていただいたにもかかわらず、

「コールの歩み」はこのように平凡なものになってしまいました。また「演奏会記録」の方も「35年史」以後整理したことがなく資料も不足なため完全な形にはなりませんでした。それでも一応の試みは完成したわけで今後の充実を期待したいと思います。

この本の編集にあたっては多くの方々の御援助をいただきました。原稿を書かれた方々、座談会に出席された方々、資料を提供された方々に深く感謝いたします。特に太田雅夫氏には終始適切な助言をいただきました。

また文献資料としては35年史、45年史のほか、京大・九州大の各オーケストラの50年史、堀内敬三「音楽明治百年史」、岩波の「近代日本総合年表」、東大新聞研等編「東大紛争の記録」などが役に立ちました。

卒業生名簿は検策の便や改訂のことを考えて別冊としました。先日発足したOB会の手で将来改訂作業がすすめられますので、変更・訂正などありましたら御一報ください。そのほか、この本についてお気づきの点を御指摘いただくよう特にお願いいたします。

波瀾に満ちた半世紀の歩みを拙ない筆で書きとめたこの本が、将来のコールを、オーケストラを背負ってゆく人たちにとって、何らかの役に立つことを私達編集委員は何よりも願っております。最後になりましたが、この本の印刷にあたってオーケストラの45年史に続いて再び一切の面倒を見ていただいた英和印刷社の小山康三氏に心から御礼の言葉を申し上げたいと思います。

1971年1月

東京大学音楽部50年史編集委員

管弦楽団

飯塚 利昭 太田 桃子

伊藤 真弓 天沼 隆彦(名簿担当)

コール・アカデミー合唱団

市井 善博 金子 修一(名簿担当)

塩満 温 星野 歳三 川越 和雄

東京大学音楽部50年史

1971年1月23日 発行

編集責任者 飯塚利昭・市井善博

印刷者 英和印刷社・小山康三

発行者 東京大学音楽部

東京都文京区本郷 7-3-1 Tel. 811-4042